

臨床柔道整復学Ⅲ		講義	准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361202

1. 授業のねらい・概要

臨床柔道整復学Ⅲで学ぶ肩周囲から前腕骨骨幹部までの骨折および脱臼は、評価や治療を誤ると重篤な機能障害を残すことが多い。そのため、基礎柔道整復学総論の知識を把握した上で、受傷機転、症状、治療法、合併症について理論的に学び、臨床現場への応用につながる知識を身につけていくことを目指す。

2. 授業の進め方

柔道整復学・理論編改訂6版の内容に沿った講義形式を基本とする。毎回の講義ではpower pointを用いたスライドによる授業を行い、分かりにくい、もしくは理解しにくい箇所は、画像および動画などを用いて説明する。

3. 授業計画

1. 橈骨遠位端伸展型骨折（受傷機転、症状）	9. 中手骨骨幹部・基部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）
2. 橈骨遠位端伸展型骨折（治療法、合併症）	10. 基節骨頸部・基部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）・小テスト
3. 橈骨遠位端屈曲型骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	11. 基節骨骨幹部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）
4. Barton骨折・Chauffeur骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	12. 末節骨骨幹部骨折・中節骨骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）
5. 舟状骨骨折（受傷機転、症状）・小テスト	13. マレットフィンガー（受傷機転、症状、治療法、合併症）
6. 舟状骨骨折（治療法、合併症）その他の手根骨骨折	14. 手部・指部脱臼（受傷機転、症状、治療法、合併症）
7. Bennett骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	15. まとめ（臨床現場で遭遇することの多い外傷や国家試験によく出題されている内容についての説明）・小テスト
8. 中手骨頸部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやテキストを使用し復習しておくこと。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

小テスト（30%）、定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②柔道整復学・実技編改訂2版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ③運動器疾患ワークブック 医歯薬出版
- ④必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

私語およびスマートホンの使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。